



2021年
創立143年

2021年（令和3年）
3月17日
第17号

人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。

マタイによる福音書 7章12節

梅花女子大学

チャペル・ニュース

Chapel News

発行

梅花女子大学宗教部
〒567-8578
茨木市宿久庄2-19-5
072-643-6221(代)
072-643-8997
E-mail skb@baika.ac.jp
澤山記念館1階

〈チャペル・アワーの奨励より〉

「そこで、わたしはあなた方に 最高の道を教えます」

児童養護施設 救世軍希望館 顧問 前田 徳晴



コリントの信徒への手紙一
13章1〜13節

皆さん先ずもって「梅花女子大学ご入学、まことにめでとうございます」と申し上げます。皆さんはもう半年以上も経っているのに、何で今更と不思議に思われた事でしょう。私は今まで、京阪神にある数多くの大学に講義やお話に行ってきた。多くの大学では最高の学問、知識を学べます。しかし、ここ梅花女子大学では更に、他で学ぶことの出来ない「プラスαの学び」、すなわち「目に見えない最高の学問」を学ぶことが出来るので「オメデトウ！」と申し上げたのです。そのひとつが本日のこのチャペル・アワーです。

さて、このチャペル・アワーでは目に見えない大切な事を学べるだけでなく、知らず知らずのうちに「品格」が備わってくるのです。皆さんが朝、夕ご利用されているスクールバスに「チャレンジ&エレガンス」と書かれていますね！この「エレガンス」こそが、「上品な美しさ、品格と気品があること、優雅で洗練されたこと」、すなわち「品格」とも訳される人生必須の宝物なのです。皆さん！しっかりと学んで行くではありませんか。

しかし昨今、テレビを観ていると、10分間程に1回は、「皆さん美しくなりましょう！...と美容、化粧品のコマーシャル、また、前とあとでは別人、他人とも間違える程の美容整形のPRが流れて参ります。全く否定するつもりはありませんが「エレガンス」とはみかけ、うわべ、表面の美しさではなく、内から湧き出てくる美しさなのですから、この「エレガンス」にもご注目！大事に学んで下さい！

聖書を手にしておられる方々へ、皆さま、先程お読みいただいたコリントの信徒への手紙一13章をもう

一度聞いて下さい。13章1節（はじまり）の前に「そこで、わたしはあなた方に最高の道を教えます」と本日のタイトルが出てきます。そうです！本日のタイトルはここから借用いたしました。さて、この手紙を書いたのは、主イエス・キリストの使徒パウロさんです。自信と確信をもって「最高の道」とおっしゃられる程ですから、全世界のあらゆる知識階級の人々が、最も尊敬と共感をおぼえて読んできたものです。又、キリスト教式で結婚式をなされる時にも、ほとんどこのところが引用されていますから、有名で、「あ、知っている！」とおっしゃる方もいらっしゃるでしょう。

ここは愛について書かれていますから、「愛の書」とも名づけられています。日本語では「愛」、英語でも「LOVE」とひとつのことばです。すなわち「なぐんだ分かっているわ」とおっしゃるでしょうね！しかし、ギリシャ語では4つかそれ以上にも分かれているんですよ！意味もちがうんです。愛のひとつ目は「フィリア」といいますが「友情」や「友愛」のことです。ふたつ目は「エロス」です。これは皆さまも知っておられるとおり「男女の恋愛」や「男女の性的な愛」を表わしています。3つ目には「ストルゲー」が出てきます。これは「家族の愛」のことです。目に見えない父、母の愛で育てられ、只今みなさまがいらっ

しやるのです。ここまではすぐ理解出来た事でしよう。4つ目は「アガペー」と訳されていて「神の愛」のことです。本日学んでいるコリント信徒への手紙一、13章に出てくる愛とはまさに「神さまの愛」のことです。では皆さん、もう一度先程のところ、13章の4節からしっかりと大きな声を出して読んでいただきたいのですが…。「愛」と書かれているところをすべて「神さま」または「イエスさま」と置き替えて7節まで読んでみて下さい。一緒に「イエスさまは忍耐強い、イエスさまは情け深い、ねたまない。イエスさまは我慢せず、高ぶらない。礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。不義を喜ばず、真実を喜ぶ。すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。」「ふくん なるほど」「あーそうか イエスさまの愛ってすごいな」と理解が深まってきましたね！

の足りないところを省みる事により、心の学びを深めてゆこうではありませんか。

さて、先程は私の事を「救世軍希望館」の前田とご紹介下さいました。「救世軍」とは？英語で「THE SALVATION ARMY」です。世界131の国と地域で活動するNGOの団体で英国ロンドンに本部があります。世界の格差を無くす為にと支援活動をつづけて150年以上になります。さて格差とは何なのでしょう？

「神さまの愛」を学びつつ、「愛」を実践する人になって下さい。「チャレンジ」と「エレガンス」を合言葉に今日からスタートいたします。神さまの祝福が皆さまの上にありますように。

「愛」と書かれているところをすべて「神さま」または「イエスさま」と置き替えて7節まで読んでみて下さい。一緒に「イエスさまは忍耐強い、イエスさまは情け深い、ねたまない。イエスさまは我慢せず、高ぶらない。礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。不義を喜ばず、真実を喜ぶ。すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。」「ふくん なるほど」「あーそうか イエスさまの愛ってすごいな」と理解が深まってきましたね！

の足りないところを省みる事により、心の学びを深めてゆこうではありませんか。

さて、先程は私の事を「救世軍希望館」の前田とご紹介下さいました。「救世軍」とは？英語で「THE SALVATION ARMY」です。世界131の国と地域で活動するNGOの団体で英国ロンドンに本部があります。世界の格差を無くす為にと支援活動をつづけて150年以上になります。さて格差とは何なのでしょう？

「神さまの愛」を学びつつ、「愛」を実践する人になって下さい。「チャレンジ」と「エレガンス」を合言葉に今日からスタートいたします。神さまの祝福が皆さまの上にありますように。

「愛」と書かれているところをすべて「神さま」または「イエスさま」と置き替えて7節まで読んでみて下さい。一緒に「イエスさまは忍耐強い、イエスさまは情け深い、ねたまない。イエスさまは我慢せず、高ぶらない。礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。不義を喜ばず、真実を喜ぶ。すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。」「ふくん なるほど」「あーそうか イエスさまの愛ってすごいな」と理解が深まってきましたね！

の足りないところを省みる事により、心の学びを深めてゆこうではありませんか。

さて、先程は私の事を「救世軍希望館」の前田とご紹介下さいました。「救世軍」とは？英語で「THE SALVATION ARMY」です。世界131の国と地域で活動するNGOの団体で英国ロンドンに本部があります。世界の格差を無くす為にと支援活動をつづけて150年以上になります。さて格差とは何なのでしょう？

「神さまの愛」を学びつつ、「愛」を実践する人になって下さい。「チャレンジ」と「エレガンス」を合言葉に今日からスタートいたします。神さまの祝福が皆さまの上にありますように。

「愛」と書かれているところをすべて「神さま」または「イエスさま」と置き替えて7節まで読んでみて下さい。一緒に「イエスさまは忍耐強い、イエスさまは情け深い、ねたまない。イエスさまは我慢せず、高ぶらない。礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。不義を喜ばず、真実を喜ぶ。すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。」「ふくん なるほど」「あーそうか イエスさまの愛ってすごいな」と理解が深まってきましたね！

の足りないところを省みる事により、心の学びを深めてゆこうではありませんか。

さて、先程は私の事を「救世軍希望館」の前田とご紹介下さいました。「救世軍」とは？英語で「THE SALVATION ARMY」です。世界131の国と地域で活動するNGOの団体で英国ロンドンに本部があります。世界の格差を無くす為にと支援活動をつづけて150年以上になります。さて格差とは何なのでしょう？

「神さまの愛」を学びつつ、「愛」を実践する人になって下さい。「チャレンジ」と「エレガンス」を合言葉に今日からスタートいたします。神さまの祝福が皆さまの上にありますように。

「愛」と書かれているところをすべて「神さま」または「イエスさま」と置き替えて7節まで読んでみて下さい。一緒に「イエスさまは忍耐強い、イエスさまは情け深い、ねたまない。イエスさまは我慢せず、高ぶらない。礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。不義を喜ばず、真実を喜ぶ。すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。」「ふくん なるほど」「あーそうか イエスさまの愛ってすごいな」と理解が深まってきましたね！

の足りないところを省みる事により、心の学びを深めてゆこうではありませんか。

さて、先程は私の事を「救世軍希望館」の前田とご紹介下さいました。「救世軍」とは？英語で「THE SALVATION ARMY」です。世界131の国と地域で活動するNGOの団体で英国ロンドンに本部があります。世界の格差を無くす為にと支援活動をつづけて150年以上になります。さて格差とは何なのでしょう？

「神さまの愛」を学びつつ、「愛」を実践する人になって下さい。「チャレンジ」と「エレガンス」を合言葉に今日からスタートいたします。神さまの祝福が皆さまの上にありますように。

「愛」と書かれているところをすべて「神さま」または「イエスさま」と置き替えて7節まで読んでみて下さい。一緒に「イエスさまは忍耐強い、イエスさまは情け深い、ねたまない。イエスさまは我慢せず、高ぶらない。礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。不義を喜ばず、真実を喜ぶ。すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。」「ふくん なるほど」「あーそうか イエスさまの愛ってすごいな」と理解が深まってきましたね！

の足りないところを省みる事により、心の学びを深めてゆこうではありませんか。

さて、先程は私の事を「救世軍希望館」の前田とご紹介下さいました。「救世軍」とは？英語で「THE SALVATION ARMY」です。世界131の国と地域で活動するNGOの団体で英国ロンドンに本部があります。世界の格差を無くす為にと支援活動をつづけて150年以上になります。さて格差とは何なのでしょう？

「神さまの愛」を学びつつ、「愛」を実践する人になって下さい。「チャレンジ」と「エレガンス」を合言葉に今日からスタートいたします。神さまの祝福が皆さまの上にありますように。

「前田徳晴先生のチャレンジ」

大正11年、浅草において「お初事件」がおこり、新聞をにぎわしました。これには当時、親が育てられなかった子どもを口べらしたために、わずかなお金をもたせて里子に出したという背景があったのですが、お初という子どもが里親に惨殺され、バラバラにされた後に川に流されるという悲惨な事件でした。同じころ、イギリスの虐待防止センターの訪問から帰国した救世軍の山室軍平は、これを聞いて虐待防止部をつくり、同じく児童虐待の防止運動をはじめていた原胤昭とも協力して活動を行いました。これは日本での児童虐待防止運動の草分けとなり、昭和8年には最初の児童虐待防止法が施行されました。昭和10年には、救世軍においても被虐待児を養育するための施設「からし種寮」が設立され、昭和初期の大阪でも当時、少年保護事業を展開していた救世軍希望館は、被虐待児を入所させて養育していました。このことを聞かされていた関係で、早い時期から児童虐待防止事業に関心をもって勉強させていただきました。大阪児童虐待防止協会やJSDC（日本子ども虐待防止学会）に所属し、日々の業務に励む傍ら勉強を続けています。

へチャペル・アワの奨励より

「向こう岸に渡ろう」

梅花学園 学園長 近藤 十郎



マルコによる福音書 4章35〜41節

皆さん、こんにちは。学園長の近藤十郎です。この礼拝堂にお集まりの皆さん、ウェブ配信によってご視聴くださっている学生の皆さん、それに教職員の皆さんと共に、チャペルの礼拝を守ることが出来ますこと、心から光榮に存じます。コロナの問題が起きる前は、学期初めにこの場所でチャペルでの礼拝を担当させていただく予定でしたが、結果的には本日、前期の最終回のチャペルでお話することになりました。

チャペルで取り上げるメッセージの主題をめぐって本日、私が掲げるテーマは、「向こう岸へ渡ろう」というイエスの言葉に関わるものです。「向こう岸」というのは、単なる物理的な「向こう岸」ではなく、ある種の目指すべき地点、目標、到

達点、といった意味で捕らえています。仏教用語で言えば、「彼岸」とも言えるでしょうか。「彼岸」は、春分の日、秋分の日前後、各三日、合計七日間のことですが、その本来の意味は、辞書的には「仏道に精進して煩惱を脱し、涅槃に達すること。またその境地（岩波国語辞典）」と定義されています。

私たちの聖書の物語のメッセージと仏教の「彼岸」を短絡的に結びつけることは、少し飛躍がありすぎるかとは思いますが、先ほど高田先生に朗読していただいた聖書の奇跡物語は、単にイエスがなさった超自然的な奇跡の業ということで表面的に読み過ごすことはできないように思われます。そこで、少々大胆な発想ですが、「向こう岸へ渡ろう」と弟子たちに問いかけられたイエスの言葉が、今を生きる私たちにとってどのような意味を持ちえるか、ということについて、私なりに思いめぐらしてみようと思っております。

地中海に面したパレスチナ、現在のイスラエル共和国には、代表的な湖の一つにガリラヤ湖があります。イエスが宣教の働きを開始されたのは、このガリラヤ湖の湖畔でした。

シモン・ペトロ、その兄弟アンデレ、ヤコブとその兄弟ヨハネの二組の漁師たちが、召命を受けてイエスの弟子になりました。ガリラヤ地方での宣教の働きの中で、ある日の夕方、イエスは弟子たちと共に舟に乗りこまれて、「向こう岸へ渡ろう」と言われました。漕ぎ出してから間もなくして、突風が吹いてきて、それまで波も風もなく風いっていた湖面が大荒れになって、乗っていた舟が水浸しになるほどであった、と物語は語ります。弟子たちは何とかしてこの苦境を脱しようとして、舟を操るのですが、なすすべを失い、途方に暮れてしまいました。ふと見ると、なんと自分たちの先生であるイエスは、舟の艦の方で眠っておられた、というのです。「先生、わたしたちがおぼれてもかまわないのですか」と弟子たちが叫びました。

ガリラヤ湖は私も先年イスラエル旅行の際に立ち寄り、山上の垂訓教会の野外礼拝場で日曜日の礼拝を守りましたが、そこから眺める湖面は実に穏やかで、鏡のようにあたりの風景を美しく照らし出していました。湖畔のレストランでは、ガリラヤ湖から釣り上げられたという「ペトロの魚（Peters fish）」のから揚げを御馳走になりました。ガリラヤ湖を渡る小さな舟にも乗る機会がありました。湖面は静かで、小魚が泳いでいる様子もはっきりと見えました。このガリラヤ湖、他の各地の湖と同様、天候が激変して、嵐になること

も多いようです。私が現在近くに住んでいるところの琵琶湖も、普段は波静かで湖面も穏やかなのですが、一旦あらしになると、湖は恐ろしいほど大荒れになります。毎年、この時期になると各地から水遊びに来られる人々が多いのですが、水難事故が度々発生します。自然を甘く見てはいけな、とその都度警戒情報が出されたりします。

荒れ狂う波風に漕ぎ悩み、死の恐怖さえ味わされた弟子たちを見て、イエスは、眠りから起き上がった、この波風に向かって「黙れ。静まれ」と仰いました。すると不思議なことに、先ほどまで荒れ狂っていた波風がおさま、すっかり風になった。弟子たちは驚いた、というわけです。「いったい、この方はどなたなのだろう。風や湖さえも従うではないか」と言い合いました。弟子たちはイエスの超自然的なパワーを見直したというのでしょうか。

しかし、私はこの物語を単なる超自然的な不思議な奇跡物語として読み過ごしてはならない、と思います。この物語の語り部たち、伝承を語り継いだ人々、そして福音書の著者たちは、この奇跡物語を通して、時代を生きる人々にもっと奥深い、凝縮したメッセージを伝えようとしたのではないかと思うのです。

舟に乗っていた弟子たちの多くは元漁師です。しかも、彼らの漁師としての働きの拠点、他でもないこのガリラヤ湖そのものでした。湖の

性質については、彼らはプロの漁師です。ですからすべてのことに精通してはたはずです。雲の流れ、汐の流れ、風向き、どの地点が漁場としてふさわしい場所か、恐らく先祖の時代から漁師としての生業を続けていたのですから、これらのことをわきまえているのは当然と言え当然です。舟の操り方についてももちろん、彼らは漁師としてはその技術は完璧だったはずですが、しかし、こうしたプロの漁師たちも、それまでの知識や技術がまったく役に立たなくなる現実がもたらされたのです。それに引き換え、彼らの先生であつたイエスは、伝承によれば大工の家に生まれ育つたというのですから、湖の人である漁師たちからすれば「陸の人」、まったくの素人にしか過ぎません。プロの漁師たちが慌てふためき、素人のイエスが嵐に翻弄されている舟の艫の方で眠っておられる、この強烈な対比が、私たちが今読んでいる奇跡物語の背景にある、と私は思っているのです。

この奇跡物語から、私たちはどのようなメッセージを聞き取ることが出来るのでしょうか。人間の知恵がつき果てることがある、積み上げてきた伝統や、知恵、技術が役に立たなくなることがある。人間の計算によってははかり知ることのできない、容易に乗り越えることが出来そうでない、巨大な壁にぶち当たることがある。この壁の前に前途を見通すことが出来なくなり、茫然と

して佇みうずくまってしまうような時が私たちの人生途上には訪れる可能性があるということでしょうか。私たちが今置かれている状況を見てみると、波風に翻弄されて苦しむ弟子たちの姿と、今の時代を何とか一生懸命に生き、生きていることに意味を見出そうとして労苦している私たちの日常が、何となくオーバーラップしているようにも思えるのです。世界のコロナ感染者、死者数の増加には、毎日の統計を知らされるたびに胸が塞がる思いです。世界のレベルでは連日20万人以上の増加、死者の数も毎日5千人を超えています。国内でもこのところ感染者の数は収まることなく増え続けています。戸惑いと不安、絶望の思いが世界的なレベルで増殖しつつあるようです。コロナの災害だけでなく、自然災害、世界のトップリーダーと目される人々の自己中心的な発想等、メディアの報道を見聞きするにつけ、これからの私たちに未来はどのような方向に向かって進むのか、暗澹たる思いになるのは私ばかりではないことでしょうか。とりわけ、これからの歴史を担っていく若い人たちが、今学びの途上にある人々が、本当の意味で未来を希望をもつて展望することが出来るような時が来るのか、だれもが心配になるような現実があります。聖書のテキストには、イエスの言葉として、世の終わりの時には、「不法がはびこるので、多くの人の愛が冷える」(マタイ

24・12・13)という言葉が残されています。愛は決して冷えてはならないのです。暗い時代、不安と恐怖の時代に、互いに愛し合い、支え合う人間の絆を何としてでも築き上げる勇氣と知恵が与えられたいものです。

今、私たち現代を生きる者たちにとって、必要なものは何でしょうか。私たち、とりわけ、今日のような暗い、不安に満ちた時代を模索しながら生きようとする皆さんのような若い人々に求められていることは、何でしょうか。今までの既成の知識や技術、知恵の延長線上に安易に乗っているだけでは道は開かれることはないでしょう。混沌の時代にあることも、混沌の時代に生きているからこそ、自分自身の立ち位置をしっかりと定めて、未来を切り開いていく積極的な生き方にチャレンジしてみたいものです。

私が、その昔大学生として人生の生き方を模索しつつあつた頃、「自己確認」という言葉が、若者たちの間で説得力を持っていました。自分が自分であることを明確に認識して、他者の思いや時の流れに身を任せるのではなく、自分らしく、自分なりの生き方を模索していくことというのでした。20歳のクリスマスに私は新潟教会でキリスト者としての洗礼を受けました。新潟教会は、梅花の創立者澤山保羅先生と深いかかわりがあつた成瀬仁蔵先生(後に日本女子大学を創設した)が初代牧師

でした。私の選んだ専門領域は英文学でしたが、大学の2回生の頃、その当時の同志社総長であられた大塚節治先生が、応援伝道のために新潟教会にいられました。その時の説教題が「神の算盤」でした。人は人生途上に色々と算盤をはじくが、神様には神様独自の算盤を持っておられて、その算盤は人間が計算するような桁にはなっていない、次元の異なる算盤を神様は持つておられて、その算盤がどのように自分の立ち位置を決めてくれるのか、祈って探し求めることが必要だといった内容のお話だったと思います。半世紀以上も前、私が20代の頃に聞いた先輩の先生のお奨めです。私はその頃、今の英文学の学びを終えたら、京都の同志社に行つて神学を学び、牧師になりたいと思うようになっていました。京都の大学に進学すると言っても、その当時の私は、親からの仕送りもゼロで、奨学金とアルバイトでかろうじて食うや食わずの貧乏学生でしたから、どのようにしたら道が開かれるのか、夢が実現するのかわからず、まったくその当てが見当たりませんでした。3回生の頃、同志社からまた後に私の恩師、指導教授になられた先生が新潟にいられたので、私がおすすす同志社への編入学の可能性をお尋ねしたところ、先生は、「そんなことは心配する必要はありません。しっかりと現在のあなたの専門の学びを続けて、同志社への試験に備えてください。お金

のことは何とかなりますから、余計な心配は無用です」ということでした。そして本当に「何とかなった」のです。大学院での授業料は免除。ほかに特別奨学金としていくらかの生活費の援助も与えられました。その後ニューヨークの神学校に行くことになった際にも、今度はアメリカの篤志家がしながおじさんとして私の授業料から生活費、食費、図書費、その他の小遣いも含めて援助してくれました。その篤志家は名前を明かされることはありませんでしたので、直接お礼は申し上げることはできませんでした。日本の留學生の誰かがこの奨学金で学び、将来、人々と教会のために働いてくれるれば、それだけでお礼の気持ちには十分です、とその方は仰っておられたそうです。多分に個人的なことを言い連ねましたが、要するに自分の算盤で計算するのではなく、神様が用いておられる特別な算盤に、自分の将来をお委ねする、そこから自分の新しい未来が開かれる、という確信が、私の若い時代の人生を養ってくれて、現在に至っていると思っています。

皆さんにとって、今の学びの日々は、どのような意味をもっているのでしょうか。遠隔授業の持つ限界を知らされて、多少、学びの意味が曖昧になってしまっているかも知れませんが、しかし、「災い転じて福となす」、もう少し積極的な言い方をすれば「災い転じて福となす」という諺にもあるように、今の時を生かす

うとすれば、いかようにも生かすことのできる可能性は十分に私たちの前に備わっています。そうであるからこそ、今までの生き方に安易に乗っているだけでなく、これから、自分にしかできない新しい生き方、新しい人生のルートを定めるために、試行錯誤を繰り返しながらも、なお真剣にチャレンジしてみる、そのようなチャレンジ能力を試してみようということも必要ではないでしょうか。

私たちにとっての「向こう岸」は、必ずしも常に目に見えているわけではありません。人生途上の嵐に巻き込まれ、先が見えなくなってしまう、恐怖感に囚われてしまう時があるかもしれません。しかし、嵐を鎮め、「向こう岸に渡る」ことができれば、一筋の光明の道筋を整えてくださっているイエスが共におられることも確かなことです。この夏の残りの期間も、そして秋学期も、私たちの前に立ちほだかる壁は大きなものであり続けるかもしれませんが、しかし、いついかなる時も私たちを確実に「向こう岸に」導いてくださる神様を信じて、心確かに日々を充実させて過ごされるよう期待しお祈りしてまいります。



「祈り」



梅花学園同窓会 副会長
元梅花中学校 教頭 垣内 範恵



テサロニケの信徒への手紙 一 5章16〜17節

礼拝堂でこのような時間を与えられたことに感謝いたします。そして、それぞれが選んだ都合のいい場所で、ライブ配信でご覧になっている梅花女子大学の皆さん、チャペル・アワーをどのような気持ちで過ごされているでしょうか。他にやりたいことがいっぱいあるのに……と、思っている人もいるかもしれません。少しの間聞いてください。礼拝は心を落ち着けて讃美歌を歌い、聖書を読み、お祈りする時間です。祈るといえるのは、自分と向き合っていて、心の深い思いを開いて、自分を振り返り、自分と対話する大切なひと時です。いつかチャペル・アワーで聞いたこと、感じたことから、将来へ

のヒントが見つかるかもしれません。若い皆さんはいつでも心の窓を開いて、アンテナを張って、周囲の人の考えをよく聞いて、自分の意見に取り入れていくという行動が必要だと思っています。積極的に自分の世界を広げていきましょう。

私は梅花学園同窓会の副会長として、同窓会活動のお手伝いをさせていただいています。今日のチャペル・アワーの依頼を受けた時は驚きましたが、母校のためにお役に立てることがあれば、と思い身に余る大役をお引き受けいたしました。同窓会では、幅広い世代の様々な経験や仕事、専門知識を持たれた皆様と、いろいろな話題についてお話しさせていただき、教えていただくことがたくさんあります。梅花で学んだことや得意なこと、神様から与えられた才能を人生に生かしておられる姿はとても素敵です。同窓会と学園のために、梅花女子大学名誉教授の川端澄子会長を中心に役員・委員の皆さんと協力して活動しています。皆さんと一緒に過ごす時間は、私にとって楽しく、心温まる大切な時間です。



そして今日は、未来の同窓生である梅花女子大学で学ぶ皆さんとの出会いを与えられ、心から感謝いたします。今は世界中が新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、大学生の皆さんも予定通りの学校生活がスタートできなかったと思います。

これから、「祈り」というタイトルでお話しさせて頂きます。新型コロナウイルスの影響は、日常生活だけでなく、様々な行事やイベントに及んでいます。活動が制限され、辛く悲しいことがあるかもしれませんが、今できることを見つけて、プラス思考で正しい情報を確認しながら、自分の未来や夢に向かって進んでいきましょう。

聖書のローマの信徒への手紙第5章3節から4節に「苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生む」とあります。予定していたことができなくなり、思い描いていたことと違って、今の時間は皆さんの未来や夢に繋がっています。新しい日常を学び、しなやかに受け入れて、光の方向に一步步歩んで乗り越えていきましょう。もし、どうしても困ったことがあったら、一人でも悩まないで、家族や友達、先生や自分信頼できる人に相談することも大切です。

私は、「英語を勉強したいのなら、梅花に行きなさい」という父の助言で梅花中学校に入学しました。梅花中学校、梅花高等学校、梅花女子大

学と、10年間を梅花で生徒・学生として過ごしました。卒業後は、母校である梅花中学校・高等学校の英語科で勤める機会に恵まれ、長年勤めさせていただきました。また、10年間は中学教頭の役割もいただきました。母校の梅花中学校・高等学校で教師になる、という報告を大学でお伝えしている時に先生からいただいた言葉を今でもはっきりと覚えています。「一つのことを教える場合、教える人は100を知っておかなければならない。10では不十分です。100ですよ。このことを忘れないようにして、しっかりと頑張りなさい」という内容でした。私はこのアドバイスをいつも心の片隅に置いて、折に触れ繰り返し思い出して授業をしていました。その先生に2年前の梅花学園創立140周年記念礼拝・式典で再会し、直接お礼を伝えることができました。とても嬉しかったです。教師を務めた後、梅花学園歌劇団事務室で梅花歌劇団「この花」がスタートするお手伝いをさせていただく機会にも恵まれ、新しいことをたくさん学ぶことができ感謝しています。

私が梅花中学校に入学した時が学園創立90周年、大学卒業の年が100周年、そして今年梅花学園は142周年を迎えましたので、私が梅花に導かれて50年以上の年月が過ぎました。梅花中学校に入学した時、梅花と私の出会いがこのように長く、

豊かな繋がりになるとは思いませんでした。梅花で学べたこと、梅花との繋がりによって、支えられ、力を与えられていることに心から感謝しています。皆さんご存じのように、梅花は明治11年1878年に創立した大阪で一番古い女子校です。当時の日本は現在の状況とは違い、まだ女性の人格が認められていない時代でしたが、女子教育の大切さに気付き、キリスト教精神による女子教育の必要性を信じた澤山保羅先生によって創立されたのが私達の学校です。大阪で一番長い歴史のある女子校の梅花学園で、学生として過ごすことができるのはとても幸せなことだと思います。私は梅花を通してたくさんの出会いを与えられました。友達、先輩、後輩、熱心で個性豊かな素晴らしい先生方。卒業後は後輩でもある生徒の皆さん、保護者の皆さん、そして一緒にお仕事をさせていただいた先生方。授業を支えてくださったという助手の方や事務室、食堂、正門や駐車場などで学校を支えてくださっている方。校舎やキャンパスをきれいに管理して下さっている方。6万人を超える卒業生と学校を結ぶ大切な役割をしてくださっている同窓会館の方など。多くの出会いが私たちを動かしています。たくさん与えられた出会いから今日は少しお話ししたいと思います。

私が30才を過ぎたころ、英語科の主任の先生から当時の文部省から日

本に招かれたアセアン諸国の若い先生方との研修会が大阪市内で開かれるので、これからの仕事のためにも是非参加するように、という話をいただきました。当時の文部省とユネスコ協会(国際連合教育科学文化機関)が主催する2日間のとても興味深い内容の研修プログラムでした。その時、私には保育園に通う子供が2人いましたので悩みましたが夫と相談し、参加することになりました。シンガポール、ブルネイ、マレーシア、タイ、フィリピンなどから来日された先生方は、国の代表としての誇りと高い意識と目標をもって活発に発言され、私はその姿に大きな刺激を受けました。その研修会に参加したことがきっかけとなり、ユネスコ協会が主催する「国際人養成講座」という全国の高校生対象の春休みや夏休み中の海外研修プログラムの同行講師として参加する依頼を受けました。学校と相談し、許可をいただき、仕事の準備を整えて出かけることができました。この時も、まだ小さかった子どものことが気になりましたが、できる限り留守中の用意をして出発しました。例えば、留守中に出来るだけ家族がスムーズに生活できるように日記帳のような「お留守番ノート」を作って、家族と私の予定を事前に記入して準備しておくとか、仕事と家庭・育児の両立を目指して工夫しました。長年仕事を続けることができたのは、周り

の皆さんのご理解はもろろのこのと、我慢して元気に育ってくれた子どもたち、自分の仕事が忙しい中、見守ってくれた夫の協力があつたからだと感謝しています。研修中は全国から集まった生徒達と、事前に調べていた訪問先についてのレポートを発表したり、意見を交わしながらフランス、イタリア、バチカン、ベルギー、ギリシャ、ドイツ、オーストラリア、ニュージーランド、アメリカなどを訪問することができ、素晴らしい体験になりました。いろいろな国のたくさんの人との出会いから、多くのことを直接現地で見、感じ、知り、世界の様々な問題を考える機会になりました。国や文化・習慣が違っても、みんなが願い、祈っているのは幸福と平和な世界です。そのためには互いの違いを理解して、自分と同じように相手のことを大切に考えることが重要です。この貴重な経験は、私の考え方や視野を大きく広げる機会になりました。私は生活の様々な場面で活かすことができるようにチャレンジしています。

皆さんのこれまでの人生でたくさんの人々に愛され、支えられ、助けられ、励まされてきた経験があると思います。そしてたくさんの人々を愛し、支え、励ました経験もあると思います。後悔や反省もあつたかもしれませんが、辛い悲しいことばかりでなく、学んだこともたくさんあつたはずでしょう。皆さんが、コロナの新しい社会で新しい出会いを重ねて、かけがえのない人々と出会うことをお祈りしています。学校は勉強をするだけでなく、生きていくための社会性を身につける場所でもあります。これは家にいるだけでは、なかなか身に付けることができません。自分と違う性格や考えの人と出会い、自分にはない特技や能力を持つている人達との付き合い方を学ぶことができる学校では、想像力が大切なポイントです。いつも自分の意見を中心にして、自分の考え方や経験してきたことだけを正しいと思つて行動するのではなく、相手の立場に立つて、相手の気持ちを考える想像力を働かせることや、日頃の普通の当たり前と思つてい生活に与えられている恵みに気付いて、感謝することが大切です。梅花を創立された澤山保羅先生の愛唱の句「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい」をいつも覚えて、想像力を働かせて行動できるようにと願っています。私達の生活には楽しいこと、嬉しいことだけでなく、嫌なことや避けて通れない突然の出来事や自分で立てた計画とは違うこともたくさん起こります。人生の様々な場面を周囲にいる人たち、家族や友達、先生、いろんな年代の人たちと支え合い、励まし合つて乗り越えていけるようにお祈りしています。大学生の皆さんには、これから選択を迫られることが

たくさんあります。何を学ぶか、何を仕事にするかしないのか、一人で生活するのか誰かと生活するのか、どこで住むのか。自分という人間は世界に一人で、自分の人生は自分で歩んで行かなければなりません。もし、今の自分に満足していなかったら、あなた次第で好きな自分に変えることはいつでもできます。今から

〈チャペル・アワーの奨励より〉

「破れを担う人へ」

日本基督教団大阪教会 牧師 本庄 侑子



詩編106節23節、ルカによる福音書22章42〜44節

今年は、新型コロナウイルスによって世界が大きく揺れ動いてきました。これまでの世界の構造や社会の仕組み、価値体系が解体され、世界的な変化を経験している私たちは、ここからもう一度、社会を作り直していかなくてはなりません。皆さんはこれから何を見て、どこに向

かって歩みますか。こんな話を讀みました。文明が発達して生活レベルが向上し、人間の欲が増大し、食料問題、エネルギー問題が深刻化した時代に語られた話です。私たちが突き当たるのは二つの道だ。第一は、社会で成功し、力を持っている人々が、劣っている人々を使い回すことで、自分たちだけのために現代文明や社会を維持し、発展させる道。第二は、様々な困難を負っている人々と共に生きていくこととする道。第二の道を選べば、世界全体の生産力は低下し、人類にとって極めて深刻な問題が起こってくることを覚悟しなければならぬ。第一の道は、人類にとって「恥多き生存」の道。第二の道は、「荘厳な人類の終焉」。そして、こう締

できます。皆さんの可能性は無限です。今日の聖句「いつも喜んでいなさい。たえず祈りなさい」を覚えて、梅花でたくさんの大切なことを学び、充実した毎日を過ごしてください。自分を信じて輝く女性に成長されることを心からお祈りしています。

めくられていました。「人間は何に価値を置いて生きるべきか」という根本問題を考えることなしに、今日明日の現実問題を処理して行くための指針を得ることは不可能ではないかと。

詩編 106 編は歴史の詩編と呼ばれています。歴史は強大な流れを持っていて、一人の力ではどうにもできない勢いがあります。このままではいけない！と思つても、自分一人では太刀打ちできません。しかし、そのような中で出エジプト記のモーセは一人、歴史の破れ口に立ちました。

最近、明治期の「新しい国づくり」を託された時代の特集記事を読む機会がありました。梅花学園が生まれたのと同じ頃ですが、その頃、多くの企業も生まれました。グンゼ、ライオン、白洋舎、森永製菓、進々堂、新宿中村屋……。いずれも、創業者がキリスト者で、聖書が伝える福音に捉えられ、導かれていった働きです。時代は違いますが、同じくキリスト者であったヤマト運輸の元経営者に関する本を読む機会もありました。それらの事業が立ち上げられた経緯や、企業理念にハッとさせられました。

ある人は、騙し合うことが取引の中にまかり通っていた時代、「信用こそ大事な資本」として「正直」「親切」「勤勉」を事業方針としました。ある人は、利益を上げた事業が、富国強兵という国の政策に結びつい

て、十代前半の女の子が酷い労働環境で働かされていくことに立ち向かい、事業利益を、女性を一人の人間として尊重し、その権利と自由を認め、教育による自律性を高めるために用いるべく、女学校を作りました。またある人は、事業が成功して富を得たら、「社会に分かち合うべく天から授かったもの」として、慈善事業への寄付金に当てました。ある人は、「神と人とに仕えるサービスが先、利益は後からついてくる」という経営理念にこだわりました。

皆、強大な歴史の流れ、人間のあがままの心の流れに対抗するようにして、その破れ口に立った人たちでした。皆、私たちと変わらない、一人の人間です。しかし、ある方と出合い、その方に手を取られて、そのような生き方に連れて行かれたのです。

もう一箇所、イエス・キリストが十字架につけられる直前に祈られたゲッセマネの祈りをお読みしました。この時、弟子たちは寝ていました。人間の罪、卑怯さ、弱さの破れを担い、十字架の上で破れ口に一人立ちはだかり、神の怒りを全てその身に受けて死ぬというイエス様の生き方は、誰からの理解も感謝もなく果たされていった、ということでした。そこで祈られた祈りはいこうでした。

「しかし、わたしの願いではなく、御心のままに行ってください。」現代社会がもてはやす自己実現ではなく、思い描いてきた理想の実現

でもない。しかし、単なる自己犠牲に重点があるのではありません。自分の願いよりも、もっと深く、大きなものの実現を願うのです。「わたしの願いではなく、あなたのもの、神様の願いが、他の誰かにではなく、この自分自身に実現しますように。」これが、破れを担って立つ者の祈りです。そのような主イエスの祈りが、この世界にはあります。そして、この祈りによって教会が生まれ、今日まで存在し続けてきました。この祈りによって、今も世界は究極的な支えを得ています。これから生きる指針、力。それは、この方を見つめるところから始まります。

今日はもう一人、ある方の話をしたいと思います。10月9日に天に帰られた大阪教員で、梅花学園の理事もなさった辻本嘉助兄です。辻本兄が教会に通うようになったのは、戦争直後の中学生時代のことでした。キリスト教主義の学校に入学し、「あなたたちは、人と社会に仕えるために勉強するのです」という話を聞いて、衝撃を受けたそうです。商売繁盛・家内安全・無病息災などご利益が売りの宗教が多いなか、「人に仕えよ」と言い切るキリスト教に人生の真理がありそうな気がして惹かれていったと。

その方は、子ども時代を韓国で過ごしました。将来は国のために戦う強い兵士になりたいと思っていたそ

うです。しかし、敗戦を経験し、日本国のために生きようとしてきた人生観が根本から崩壊してしまつた。何が間違っていたのだろうと悩みながら、時代と国を超えて永遠に変らない真理を求めるようになった時、学校で聞いたイエス様の話は、救いの言葉として、魂の深くに切り込んできたそうです。

貧しさや小ささから我先にと抜け出すようにして知恵を身につけ、より高く立派な者になっていくところに救いなどない。その行き着く果ては争い、殺し合いなんだ。私たちは、十字架につけられて死ななければならぬ罪人。自分こそが正しいとして、隣人を踏みつけ、国同士で殺しあつてしまふような罪人。しかし、そんな私たちのために、神様の独り子であるイエス様が、代わりに十字架にかかってくださった。そこまでして、神様は私たちを愛してくださっている。

イエス様のような愛など持ち得ない愚かな私たちが、それでも神様に愛されている。赦されている。そう知る時、私たちの目に映る世界はすっかり変わってしまうのです。人より上に立とう、偉業を成し遂げよう、自分の利益さえあげられればそれでいい、などという浅ましい思いなど消え失せてしまつて、人を愛したい、人に仕えたいという聖なる思いが与えられます。神さまに罰を与えられることを恐れてとか、人からの強制とか、義務感とか、燃えたぎ

るような正義感とかによるのではない、十字架の愛と祈りに導かれて、最も低いところから、人に伝えさせていたたたくなる。

戦後も結局は、誰もが上を目指し、ご利益を売り物にする宗教ばかりがはびこる中で、辻本兄はイエス様の十字架の言葉、祈りに捉えられて、生涯、人に仕える道を求めて生きられました。辻本兄は、淀川キリスト教病院の院長もなさいました。晩年、その病院に入院されましたが、召される数時間前に病室を訪問させていただきました。その時、こんな話をしてくださいました。初代院長はアメリカから来た宣教師の方でしたが、その方が院長を辞して、母国アメリカに帰ることを決意された時、院長代理として辻本兄を指名されました。まだ30代で、他にもっと経験や能力のある医師がいるはずだと必死で断ったそうですが、院長は譲らなかつた。あなたが引き受けてくれなければ私は帰れないと、涙を流されたそうです。どうして私なのですかと聞いたたら、「あなたには野心がない。野心のある人が院長になつてはだめなんだ」とおっしゃった。そしておっしゃった。「本庄先生も主任牧師になるかどうかで悩んでいたと思うけど、本庄先生も野心がない。だから合格」。私はその時、牧師として悩んでいました。若くして大阪教会の主任牧師になつてしまい、こうして教会を長年愛し、仕えて来られた方が天に召されようとしている時も、

その苦しみを理解して魂を上手に牧することができない、と申し訳なく思い悩んでいました。

しかし辻本兄は、魂を牧せる牧者としてではなく、死の間際まで愛してもらい励ましてもらわなくては立つことができない、小さな者としてでしか最後の時を過ごせなかつた私を、命を注ぎ出すようにして思いやり、励ましてくださいました。力や経験を求めて、上を上を目指さなくてとはと自分以上に成り上がろうとしていた私に、牧師として、キリスト者として、最も大切なことを伝えて、天に召されて行かれました。世界を支え、私たちを生かすのは、破れを担う祈りです。皆さんの将来が、イエス・キリストの祈りに導かれ、人生全体が、その祈りそのものとなりますように。



辻本嘉助先生



〈チャペル・アワーの奨励より〉

「生きている不思議」

日本基督教団大津教会 牧師 平山正道



テサロニケの信徒への手紙 1
5章16～18節

NHKの大河ドラマ、「麒麟が来る」、昨晚ご覧になった方もあると思います。主人公は明智光秀ですが、彼と共に織田信長がキーパーソンです。「人間五十年、下天の内を比べれば、夢幻の如くなり。一度生を得て滅せぬ者のあるべきか」その織田信長が好んで舞つた幸若舞「敦盛」の中に出てくる節回しです。

「人の一生の50年は、下天(げてん、仏教用語：簡単に言えば「人間の世界の歴史」)のことに比べたら、夢幻のように短い。一度、生(しょう：いのち)を受けた者で、滅ばないものがあるだろうか、いやいや、みな滅びる、死ぬ」というような意味です。戦国時代を代表する優れた武将の織田信長が、この歌を好んだの

が分かるような気がします。あの時代に、あれほどの絶対的な権力を手にし、生涯どれほど多くの敵を殺したか分からない信長も、自分もやがて死ぬというを見据えて、人間の命は、はかないものだと思わしなから、生きていたのだと思います。

この織田信長の歌を多分もじつて、わたしたちの国では、かつて「人生50年」と言われていました。自分の人生の年月を50年で区切つて、きちんと計画を立てて生きるのが大事だとされました。いまは50年どころか、その倍、100歳まで生きる人が大勢います。

皆さんは、まだ若い、10代後半、20代前半の人がほとんどです、人生の中で一番輝いている、元気いっぱい年代だと思えますが、けさは、皆さんに少し立ち止まって、考えてほしいことがあります。それは、皆さんが、いま元気にこのチャペル・アワーに参加していること(リモートによって自宅におられる学生の皆さんもあると思いますが)、とにかく、今日、2020年11月2日、月曜日に、朝目覚めて、数時間後、お昼過ぎに礼拝と一緒に捧げているのは、普通のことなのかどうかという



ことです。当たり前ですが、皆さんは生きています、わたしも生きています。そんなことは、今さら、わざわざ指摘されるようなことではない、と言われるでしょう。確かにそうかもしれません。

でも、わたしが、今日皆さんに、考えてほしいのは、まさにこの点です。生きていることが本当に、当たり前なのかどうか、ということなんです。3日前、10月30日に、トルコの西部のエーゲ海を震源とする強い地震が発生しました。大きなビルが倒壊して、数多くの人が犠牲になりました。今なお、行方不明者の捜索が続いています。救出を待っている方々が一刻も早く助け出されることを願っています。この地震で犠牲になった人は、昨日の夜の報道ではトルコ国内では62人、ギリシアのサモス島では高校生の男女が2人犠牲になっています。合わせて64人。亡くなった人々は、地震の直前まで、自分が間もなく死ぬとは誰一人考えていませんでした。いや、地面が揺れた瞬間だって、突然襲った地震への恐怖心は湧き起こっても、死ぬために心の準備をした人はほとんどいない、そんな暇もなかったことでしょう。突然地震が起こり、突然人が死んだのです。実は、わたしは、9年前の東日本大震災の時、栃木県の宇都宮市に住んでいて、被災しました。あの時の宇都宮市は、震度6強でした。わたしは3階建ての建物の3階部分にいたのですが、ゴースト

いう不気味な音が聞こえてきたと思っただけで、地面がいきなり、強烈に揺り動かされました。立っていることは不可能でした、倒れてくる家具を必死で抑えるくらいしかできませんでした。最初の揺れが収まって、屋内に留まることに不安を覚えて近所の空き地に避難しましたが、先に出てきていた、幼稚園児たちが恐怖のあまり、泣き叫んでいて、その声が辺りに響きわたり、幼稚園の先生方が、泣く子どもを抱きしめて、異様な光景でした。大変な出来事が起こったことを報道で知るのとは、そのあとです。栃木県の北隣が福島県、さらにその北が宮城県、岩手県と続きます。東北のこれらの県の太平洋沿岸では、ご承知のように地震のあと、巨大な津波が押し寄せたために、想像を絶する被害が出て、沢山の人が犠牲になりました。福島第1原発の事故も起こりました。わたしの住んでいた宇都宮から、福島第1原発までは130キロしか離れていません。原発事故によって、宇都宮市も空間放射線量が、急に高くなりました。浄水場に、放射性微粒子が降り注ぎ、水道水が汚染されました。水道水を赤ちゃんのミルクに使えなくなり、市がペットボトルのミネラルウォーターを赤ちゃんの居る家庭に配布しました。間もなく、大勢の福島県民が避難して来られました。宇都宮市内では、特に東部では家屋の被害が大きく、ほとんどの家の瓦が落ちました。市内の全

壊家屋は9棟と少ないのですが、半壊242棟、一部損壊が1万8千棟に上りました。負傷者も沢山出ました。水道やガスが、地域によって違うのですが、かなり長期にわたって止まりました。栃木県は海なし県なので、津波の被害はありませんでしたが、もし、海に面していたら、と思うとぞっとしました。9年前の3月11日のあの地震は、わたしに、生きていることを当たり前と思っただけなら、何を強烈に突き付ける経験となりました。わたしたちは、生かされています。生きているのが、不思議だという感覚を持つておくべきだと、思うのです。

実はこれ以外にも、わたしは、実際に死にかけたことが何回かある人間です。去年春のことですが、わたしは、ある病気になることが、友人の送別会に参加し、15、6人で会食をしている場所で、具合が悪くなりました。お茶を飲むうとして、湯飲みに左手を伸ばしてつかむことはできたのですが、それを持ち上げることはできない、変だな、と思って、右手では大丈夫でした、妙な感覚でした。そのまま、しばらくして立ち上がろうとしたら、左足も全く動きません、そして舌も上手く回らないことに気づきました。普通に喋れないのです。疲れているところに飲んだからこうなったのかと軽く考えて、家に電話をかけました。しどろもどろになりながら、妻に、車で迎えに来て、と頼みました。そうした

ら、妻が、何酔っぱらつての！わたし今日は疲れているからお迎えなんて嫌よ、タクシー拾って、帰ってらっしゃい！と冷たく言うのです。仕方がないので、そうしようかと思っていたところ、周りにいた友人たちが、平山がちょっと変だ、と騒ぎ出して、救急車を呼ぼう、というのです。そんな大げさな、大丈夫だよ、とわたしは渋ったのですが、みんなが、そんなこと言わずに、病院に行った方がいいと強く勧めてくれるものですから、言われるがまま、救急車を呼んでもらって、救急病院に運ばれました。

すぐに、いろいろな検査を受けて、脳梗塞を起こしていることが判明しました。脳幹部、脳橋（農協ではなく）の脳梗塞で、お医者さんから、早く運んでもらって本当によかったですね、と言われた。すぐに治療が始まり、翌朝には、左半身もだいたい動くようになり、言葉も、割とスムーズに喋れるようになっていました。脳梗塞は発症から2週間が、再発の危険性が高いということで、2週間、入院して、経過を観察することになりました。

その間に、お医者さんに言われたことを、わたしは決して忘れません。「平山さんは、処置が早かったから助かったんですよ。運ばれるのが遅かったら、どうなっていたか分かりませんよ」。

脳梗塞という病気は、脳の血管が詰まって、脳に酸素が行かず、その

部分の脳の機能が失われて、体に異常をきたす病気です。それが起こった時には、とにかく、できる限り早く、脳の血流を回復させるのが大事です。つまり、どれだけ早く病院に運ばれて、専門的な治療を開始できるかにかかっているわけです。

わたしは幸運でした。もしあの時、妻が、車で迎えに来てくれていたらどうなっていたか、倒れた場所は、大津の隣の草津市内でしたから、彼女が到着するまでに30分以上かかったと思います。そして、その場合、多分一度、自宅に帰って、左手足が動かないから、やっぱり病院に行くという事になっても、救急車で運ばれるよりもずっと時間がかかって、病院に着いて、治療の開始が遅れる事になっていたでしょう。あるいは、そのまま家で寝込んでいたかも知れません。そうになると、大変な事になっていたと思います。よくても、重い後遺症が残っていたと思います。友人たちが、とにかく救急車だと、厳しく助言してくれたことが幸いでした。そのお陰で、わたしは助かりました。あの日の夜、わたしは病院のICUのベッドに横たわり、何種類もの点滴を受けながら、よく寝てませんでした。このまま死んで、朝を迎えられないのではないかと不安だったからです。うとうとしながら、病室の窓の外が、明るくなってきたのが分かった時には、本当に嬉しかった。そのような経験をして、2週間たってからやっ

と退院して、今も定期的に病院に行っています。そして、今日まで生かされて、皆さんの前に立つことができました。

こうして生きているのは、わたしにとつて不思議なことで、当たり前なのではないと自分に言い聞かせています。

志賀直哉のある小説のことをお話しして、まとめていきたいと思っています。『城の崎にて』お読みになった方が多いと思います。たわいのない話のようにも思いますが、わたしはあの話が好きです。『城の崎にて』は今から百年以上前、1917(大正6)年に発表されました。志賀直哉がその少し前に東京の新橋駅近くで、線路脇を歩いている時に電車で接触して大怪我をします。そのけがを治すために、城崎温泉に湯治に行つた経験から生まれたのがあの短編です。城崎温泉の、ある旅館の2階に主人公は逗留しています。客室の窓から、外の景色を眺めているところから話は展開していきます。まず、軒のあたりで活動する蜂に目が留まります。ところが、そのうちの一匹動かなくなる、多分死んでしまった、さびしい気持ちになります。ねずみに魚を焼く串を突き刺して、川に放り込み、必死に這い上がろうとするねずみに石を投げる、地元のやんちゃな子どもたちを眺めます。これもまたいやな気持ちになります。ある日の夕方、散歩して川の上流へ歩いていくと、流れの中ほど

に、一匹のイモリがいるのを見つけます。黒い石の上でじっとたたずんでいる。主人公は何の気なしに、足元から石を拾って、イモリめがけて、投げました。イモリをびっくりさせて、水に逃げ込ませようとしたのです。ところが思わぬ結果を招きました。モノを狙って石を投げ命中させたことなど、ほとんどできたためしがない彼が、その時は投げた石が、たまたま、イモリに命中してしまつたのです。イモリは動かなくなりました。こんな文章です。そのまゝ紹介します。

「自分は飛んだ事をしたと思った。虫を殺す事をよくする自分であるが、その気が全くないのに殺してしまつたのは自分の妙な嫌な気をさした。もとより、自分のした事ではあつたが如何にも偶然だった。イモリにとつては全く不意な死であつた。自分はしばらくそこに、うずくまつていた。イモリと自分だけになつたような心持がして、イモリの身に自分がなつてその心持を感じた。可哀想に想うと同時に、生き物の淋しさを一緒に感じた。自分は偶然に死ななかつた。イモリは偶然に死んだ。自分は淋しい気持ちになつて、ようやく足元の見える路を、温泉宿の方に帰つて来た」。

どうでしょうか、このイモリは、実はわたし自身のような存在です。不思議と生きていて、不思議と死ぬのです。それがいつなのか分かりません。突然、何かの原因でその時が

訪れるかもしれないのです。今は生きていますが、お話ししたように、去年死にかけました。でも実は、死にかけたのは、あれが初めてではありません。30年ほど前に、群馬県内の関越自動車道で、車を運転中に大きな事故を起こして、車外に放り出され、道路から8メートル下まで落ちたことがあります。肩やあばら骨の骨折だけで助かつたのですが、あの時にも、取り調べた警官から、こんな事故で生きている人はめつたにない、不思議ですよ、神様に感謝しなさいときついお説教をいただきました。

北アルプスの北穂高岳で、少し滑落して命拾ひしたこともあります。もう15年くらい前ですが、GWに友人と登つて下山中に滑り始めて、雪にピッケルを打ち込んだところまでは教科書通りでよかったのですが、ピッケルの握り方が甘かつたせいか、ピッケルが手から抜けてしまい、その上、ピッケルと腕を繋いでいたバンドまで抜けかけて、辛うじて、指先にバンドが引つつかかつて、何とか事なきを得たことができたことがあります。滑り落ちたのは、十メートルくらいで、たいしたことはないのですが、あの時も、もしそこで止まっていなかったら、かなり急なところでしたから、多分数百メートル滑り落ちて大けがをするか、死んでいたと思います。わたしが、今生きているのが不思議なのだと自分に言い聞かせているのは、以上のよ

うないくつかの経験を通してです。わたしは、本気で、今生きているのが不思議だと思っています。そして、これは事情や背景はそれぞれ違っても、わたしたち人間はみな同じだと思うのです。生きているのが不思議な命を、今なぜか生かされている！一人ひとりのいのちが今ある、ということの不思議…聖書は、目には見えない神様がわたしたちに命を与え、お守りくださっているのだということ教えています。この事実に向いて、喜び、深い感謝のうち、お互いの命を愛おしみながら、共に生きていきたいと思えます。今日、選ばせていただいた聖書箇所は「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい」よく知られた箇所です。

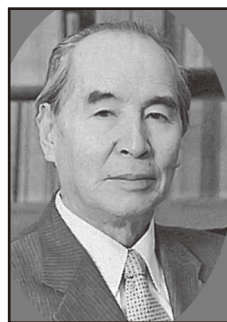
読んで意味はよく分かりますし、そうできればいいなあと思います。が、どうでしょうか。わたしは、この言葉は、なかなかそうしない人間に、「生きていること」を、きちんと受け止め直して、命を喜び、感謝し、神様に祈るように促しているような気がしてならないのです。生きていること自体を喜びなさい、生きていることの不思議を考えなさい、生かされていることに感謝しなさい、生かしてくださっている神様に祈りを捧げなさい、と。



追悼

元梅花学園学園長 原忠和先生

宗教部



元 梅花学園学園長
原忠和先生

元本学学園長の原忠和先生が、2020年2月15日(土)に天に召されました。86年3ヶ月のご生涯でした。

先生は1933年、台北市にお生まれになりました。1950年4月にお父様の忠雄牧師が梅花教会牧師、梅花学園の宗教主事に就任されると、これに伴い豊中に来られて豊中高校を卒業しておられます。その後、同志社大学神学部に進み1958年に同神学研究科を卒業、浪花教会、今治教会の伝道師を経て、伊予小松教会、大津教会、京都教会、南大阪教会、生野教会(いずれも日本基督教団)の牧師を歴任されました。その間、日本基督教団総会議長(1992～1996年)を、また2007年～2017年3月まで梅花学園理事長、学園長を務められました。

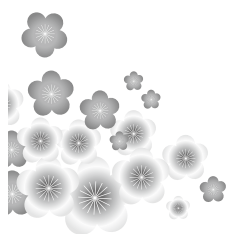
葬儀は昨年の2月18日、大津教会で平山正道牧師の司式にて家族葬の形で行われました。その後、ご遺族は各界に呼びかけての追悼礼拝を企画しておられました。コロナ禍のため開催が延期となっています。

先生が葬儀で読むように指定された聖書箇所は、ローマの信徒への手紙11章36節以下でした。

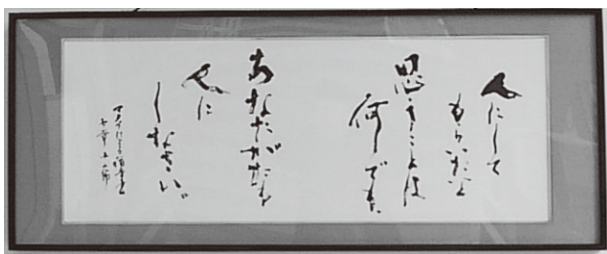
「すべてのものは、神から出て、神によって保たれ、神に向かっているのです。栄光が神に永遠にありますように、アーメン」。

先生が担当された最後の学園創立記念礼拝にもこの箇所が選ばれていました。「すべてが神に向かっている、されば晴れもよし、雨もまたよし」——先生の温かいお声が耳によみがえって参ります。

原忠和先生のうえに、神様の平安がありますようにお祈り申し上げます。



学生会館・F棟一階の聖句について



学生会館1階 聖句

日本文化学科准教授の相奈良公仁子先生に書いて頂きました。貴重なお時間をお捧げ頂き、ご協力くださいまして有り難うございました。心より感謝申し上げます。



F棟1階ロビー 聖句

クリスマス標語2020

心より添うクリスマス

学園クリスマス標語

—2020年度 クリスマス標語—

「心より添うクリスマス」 学生会館前

梅花女子大学 アドベント音楽礼拝

2020年12月14日(月) 澤山記念館礼拝堂



梅花女子大学 クリスマス礼拝

2020年12月21日(月) 澤山記念館礼拝堂



皆さん、こんにちは！ 私は、12月21日(月)13時から礼拝堂で行われたクリスマス礼拝でキャンドル点灯と聖書朗読の奉仕、聖歌隊に参加した心理学部心理学科一年の中谷麗夢です。クリスマス礼拝に参加してまず思ったのが「無事に終わってよかった」です。私ともう一人のキャンドル点灯と聖書朗読の奉仕をした人と私をクリスマス礼拝に参加しようと、誘ってくれた友達の三人という少ない人数で参加しましたが無事に終わってよかったです。私は、自分が担当する聖書朗読の練習、クリスマス礼拝の頭から最後までの一通りの流れの確認をするため、集合時間より早く行きました。

「クリスマス礼拝に
参加して」心理学部心理学科一年生
中谷 麗夢

コロナ禍での 宗教部の取り組みについて

宗教部

2020年度には、私たちが今まで体験したことのない困難な出来事が次々と起こった。日本で行われることになっていったオンラインビックは、世界的な新型コロナウイルス感染症蔓延のため延期となった。

本学でも多くの行事を中止しなければならなかったが、チャペル・アワーについては、まだ学生の入構が制限されていた5月上旬から、学生、教職員に向けて礼拝堂よりYouTubeを用いてのライブ配信を行った。最初は全くの手探り状態であったが、それにもかかわらず大きな失敗もなしに配信を開始する事ができた。当初、音声は満足できるものではなかった。そこでマイクを整えて音声を向上させ、さらにカメラ、三脚、配信用PC等の機材を整えていった。仕組みや方式の勉強を重ねる試行錯誤の日々であった。

本学では1年生にチャペル・アワーへの参加を義務づけているが、その実質を満たすため、1年生にはGoogle Classroomを用いて配信の案内と視聴の確認を行った。こちらからはじめは使い方に慣れず苦労した。前期、一回目の出席率は100パーセントであった。その後も90パーセント以上の高い出席率を保ち、まさに与えられたその状況の中で、チャペル・アワーが役割を果たしている

ことを実感させられるものであった。

入構禁止が解除されてからも、チャペル・アワーはライブ配信を中心に行ったが、同時に希望者には実際の礼拝堂でのチャペル・アワーに参加できるような案内し、換気、消毒、座席の配置を工夫するなど、状況への適切な対応に努めた。

後期に入って、特別な礼拝であるアドベント音楽礼拝やクリスマス礼拝は、視聴者に臨場感を味わってもらえるようカメラアングルを工夫し、音響、照明等リハーサルを重ね、いつも以上に緊張して臨んだ。しかしよりにもよって音楽礼拝の日に、音声の不具合が起こった。原因不明、まったく想定外の出来事であったが、急遽ライブ配信を中止して、録画に切り替え、その後録画した動画を配信して何とか対応することができた。来る3月16日に行う梅花女子大学・大学院の卒業礼拝も新型コロナウイルスが、急拡大していることを鑑み、ライブ配信で行う予定である。

どのような状況にあらうとも、礼拝が行われ、学生に聖書との、また神との出会いの機会が備え続けられるのがキリスト教主義学校としての確信を深めさせられた1年であった。まさにこの機会にこそ、礼拝を通じて時宜に応じた言葉を豊かに届けられたと信じている。2021年度も技術向上にチャレンジして、与えられた使命に忠実に前進するものになりたい。

「オンラインの チャペル・アワーに 参加して」

心理学部心理学科一年生
小林 世莉



私はチャペル・アワーに参加した事で先生方から、生き方のヒントを教えて頂きました。そのヒントの共通点は、行動や考え方を少し変えてみるという事です。私は何かを変えたい時、全面的に変えなければならぬと思っています。けれどもそう仰った先生は誰もおらず、ほんの少し変われば十分との事でした。コロナ禍の状況もあり心身共に辛い時があったので、先生方のお話がとても励みになっていました。

大学生になりこの授業も最初はよく分かりませんでしたが、今では参加できて良かったです。オンラインではありましたが、対面の時と同等の事が学べたと思います。この場で貰ったヒントを活かし、これから過ごしていきたいです。



後期 クリスマス献金

・大阪府「新型コロナウイルス助け合い募金」	13,000円
・パンダ園	10,000円
・止揚学園	10,000円
・救世軍希望館	10,000円
・釜ヶ崎医療連絡者会議(路上生活者支援団体)	10,000円
・レバノンホーム	10,000円
・振込手数料(郵便局)	304円

合 計 63,304円
総合計 165,456円

《 献 品 》

日本キリスト教海外医療協力会へ寄贈
【海外国内切手】 約1kg50g 【コイン】 69枚(345g)
【50円葉書】 35枚

以上

2020年度 献金及び献品報告

いつも宗教部の諸活動にご協力頂きましてありがとうございます。今年は下記の新型コロナウイルス緊急支援募金・施設・団体に、集めた献金・献品を送付いたしました。ご協力いただきました皆様に心より感謝し、ご報告申し上げます。

《 献金送付先 》

前期献金

・ユニセフ「新型コロナウイルス感染症緊急募金」	34,000円
・国際協力NGOワールド・ビジョン・ジャパン「新型コロナウイルス緊急支援募金」	34,000円
・大阪府「新型コロナウイルス助け合い募金」	34,000円
・振込手数料(郵便局)	152円

合 計 102,152円

宗教部一年の歩み

宗教部はチャペル・アワー（礼拝）を守ることに重点をおいた一年だった。



チャペル・アワーは学園の建学の精神を伝える重要な役割を担っている。宗教部は、心に残るメッセージをライブ配信によって伝えることに全力を注いだ。

4月 聖書を読み祈る「オリブのつどい」

毎週講義期間中の水曜日と木曜日に教職員と学生のための「オリブのつどい」をお昼休みに宗教部事務室で開催しているが、2020年度は新型コロナウイルス感染症防止のために中止した。

竹の子掘りと販売

学内で収穫した竹の子の売上金は前期献金に充当した。

6月 青梅の収穫と販売

今年も、学内で実った青梅を宗教部で収穫し販売した。毎年、5月末～6月中旬辺りの適当な時期に収穫し販売しているが、今年は6月上旬に収



穫した。売上金は、前期献金に充当した。

8月

「止揚学園」訪問

今年の止揚学園訪問は新型コロナウイルス感染症防止のために中止した。



11月 小梅祭「学生礼拝」

今年の学生礼拝は新型コロナウイルス感染症防止のために中止した。

アドベント点灯式

今年のアドベント点灯式は新型コロナウイルス感染症防止のために、学生の学内への入構が禁止されたので、中止した。

12月 大学 アドベント音楽礼拝

12月14日（月）午後1時よりアドベント音楽礼拝を澤山記念館礼拝堂で行った。講師は川西合唱連盟理事長、元梅花短期大学部非常勤講師の堀田啓子先生より「喜びの歌」アドベント・クリスマスの讃美歌を歌う」と題して奨励があった。オルガン伴奏は水間泉先生が担当された。

大学 クリスマス礼拝

12月21日（月）午後1時より大学のクリスマス礼拝を礼拝堂で行った。奏楽は水間泉先生。司会是高田太先生。キャンドル点灯と聖書朗読は心理学科一年の石井真美さんと同じく心理学科一年の中谷麗夢さんが担当した。日本基督

教団平安教会

牧師の小笠原

純先生より

「心より添う

クリスマス」

と題して説教

があった。



1月 創立143周年記念礼拝

1月18日（月）午前10時から澤山記念館礼拝堂で梅花学園創立143周年記念礼拝が開催された。参加者は約40名。司会は、中高宗教部副部長の南豊先生。奏楽は、中高音楽科の藤山聖子先生が担当された。学園宗教主事の高田太先生より「すべてを望み、すべてに耐える」と題して奨励があった。毎年、記念礼拝後に行われている澤山保羅先生墓前祈祷会は新型コロナウイルス感染症防止のために中止になった。

3月

卒業礼拝

大学・大学院の卒業礼拝を3月16日（火）午前9時15分より、リモート・ライブ配信の形にて礼拝堂で行う。「思い



出しながら」と題して日本基督教団浪花教会牧師で梅花中高聖書科非常勤講師の山口恒先生から説教を頂く予定である。

学園創立143周年 記念礼拝

2021年1月18日（月）午前10時
澤山記念館礼拝堂



2020年度

チャペル・アワー
感想文より

「チャペル・アワーによろこそ」

本学宗教主事 高田太先生

私は、キリスト教のことをよく知らなかったため、今回のチャペル・アワーにより初めて、深く知ることができました。讃美歌には素敵な意味が込められており、讃美歌は私が普段聴いている音楽とは全く違い、実際に聴くことができてとても新鮮でした。このようなストレスが溜まる時期でもあるため先生方の歌声により心が和むことができました。また、聖書には、心が清らかになり自分の生き方などを改めて考え直されるようなことなど言葉がたくさん書かれているということがわかりました。授業以外の時にも聖書を読んでたくさん理解していくようにしていきたいと思っています。



ライブ配信機材

「悩まない力」

日本基督教団天満教会伝道師 西澤献先生

今回のチャペル・アワーでの「悩まない力」の話が大変印象的であり、その考え方を自分にもぜひとも反映していきたいと思わされるお話でした。生活しているうえでどうしても悩みというものはとわいついてくるもので、それをポジティブに考える、一歩ずつでも進んでいく、その頑張りをイエス様も見てくださっているという気持ちを持っていきたいと思いました。悩むことは仕方ない、悪いことじゃない、ただポジティブな考え方にするだけでより自分の気持ちも楽になり、充実したものになっていくと教えてもらえました。このチャペル・アワーでのお話など自分を見直すのにぴったりの機会なので、次も、またその次も新しい発見をしていきたいです。

「逆転の発想のすすめ」

本学食文化学科教授 菅本大二先生

私はよくネガティブ思考をしてしまうのですが、逆の発想をしてみることで救われることもあるんだと気づかされました。不幸なことが起こったとしてもそこから立ち直れる、這い上がれると神様から信頼されて与えられたものだという教えがとても心に残りました。現在、新型コロナウイルスで世界という規模で様々な影響、悲しいニュースが出ていますが、世界中の人が力を合わせて一刻も早く前の生活を取り戻したいです。また、あたりまえだと思っていたことがあたりまえじゃないということに今まで以上に感謝をして生きていきたいと思っています。

「好きこそものの上手なれ」

本学情報メディア学科教授 瀬戸口誠先生

先生の「好きこそものの上手なれ」というお話を聞いて、何事にも自分の挑戦してみたいことや、思ったことは積極的に行動していくべきだなと思いました。また、好きなことには自分自身でコントロールできず、嫌いなことの方がコントロールしやすいことです。好きなこと、嫌いなことはどちらも自分自身で決めつけています。だからそこ嫌いなことを好きにすることは時間がかりますが、その分これからの自分の人生にプラスになってくるんだなと感じました。なので、これから過ごしていく中で色々な事につづかることもあると思いますが、その問題と向き合い解決のできるきっかけを見つけて、自分自身で考えていきたいと思いました。

「いのちの種を未来に」

日本基督教団千里聖愛教会牧師 川江友二先生

今回は種の話ということで、また違った視点からのお話で新鮮な気持ちで聴くことができました。生まれた環境によって不平等を強いられる状況に不満を抱いてしまうのはもつともの事だと思っています。その中で自分を精一杯生きていきたいなど綺麗事を述べつつ過ごしてしまえばいいのにと思いますが、そう簡単でもないうえに、日本ではまともな生活はあるものの、虐待などの問題もあり、一概に経済などの環境だけといえないのも難しい点だと思います。

「あなたの隣人になる存在」

日本基督教団京都妻教会牧師 内山友也先生

今回のお話で「私たちは助ける側の視点になりがちだ」と話されているのを聞き、自分が助ける側の視点で聞いていることに気づきました。私たちは助ける側であると同時に助けられる側でもあること。助け、助けられる関係以外にも多くの関係性があり、そのどれもが一方だけの立場ではなく両方の立場を一人一人がもっているということ。当たり前のことのように、言われるまで気づくことができませんでした。どちらの視点もきちんともち、行動できる人になりたいと思いました。

「座って食べなさい」

日本基督教団鳳教会主任担任教師 梅花中学・高等学校聖書科非常勤講師 三浦達先生

小さい頃から食事中は座って食べなさいと教わってきましたが、それは行儀が悪いからと教えられてきました。もちろん間違っています。座って食べることで一緒に食事をしている人と同じ時間を共有できるのでその人との距離を縮めたり、食事に集中することができると知らされました。現代では食事は作業として食べる人も増えていてと思います。生き残るためには必要なことですが重要な事を作業化してしまうのはとてももったいないことだと思います。今日の授業でちゃんと座って落ち着いて食事をすることは作業化を防い



だり、他の人との交流の機会も増えるとしても良いことだと気づきました。

「2番目に大切なこと」

日本基督教団香里ヶ丘教会牧師

渡辺圭一郎先生

「頑張ることは一番大切で、みんなそれをわかっているけど、時には頑張らないことも大切だから、2番目に大事ななことという題をつけた」と仰っているのを聞いた時、頑張らないといけないという義務感を日々感じていた私は、まさに青天の霹靂のような感覚に陥りました。神様はあなたの頑張りや涙を知っているという言葉でとても救われた気持ちになりました。

「祈り」

梅花学園同窓会副会長

元梅花中学校教頭

垣内範恵先生

私も将来教師を目指しているので、「一つのことをわからない人に教えるのならば、教える人は100を知っておかなければいけない。10では無く、100だ。」という言葉がとても胸に染みました。きつこのチャペル・アワーを聞いていなければ出会うことのできなかった言葉なので、そのような出会いを大切にしていきたいと思います。人から人へ受け継がれる言葉はいつになっても色褪せず、その人の心の支えになって行くということを感じ、改めて言葉の力強さを感じました。



「希望」

日本基督教団河内松原教会牧師

井口智子先生

讃美歌の歌声が非常に響き渡っていてとても心が落ち着く音色でした。お祈りでは、まだまだ収束できていないコロナウイルスのことや自然災害のことなどを思い返すことができました。今日のお話では、昔でも自然災害があり、今よりもひどい災害があったのではないかと思えました。なぜなら、食料不足があったであらうし、船の上での生活は非常に不便であつただろうと思えました。チンパンジーのお話を聴いて、私たちは目には見えない未来を想像しているが、チンパンジーは今しか見えていないことが分かり、人間は見えずぎてしまっている部分があるのだと思えました。しかし未来を想像することができれば希望を持つことができるのだと分かり人間の素晴らしさを改めて知ることができました。私はたとえ絶望が見えてしまったとしても希望が見えるまで頑張りたいと思いました。私はこれから先いろいろな出会い、出来事などがありそれは希望のときや絶望のときもあるかもしれないが前を向いて生きていきたいと思いました。私はもともとこれからも想像するということを大切にしていきたいと思っています。

「人生の真実」

日本基督教団島之内教会牧師

木戸定先生

人々には、何か自分にしか果たすことのできないものがあると言う言葉が心に残りました。なにか自分のする事を、意味がないものだと思ったり、行動す

る事でなになるのかということをする前から決めるのではなく、その行いを通して何か自分にか果たすことのできる役割があるかも知れない、そう考える事は大切なことだと感じました。そして、思い込みというのは怖いと感じ、自分の価値観や固定概念で物事を決め、自分と同じでない考えや価値観の人を批判することは決してはいけないと思えました。また、考え方を少し変えますと、もしも、常識とは反対にあまり良くない考えを持っている方がいた場合、そこで自分が相手のその考えの背景を何も知らずに、悪と決めつけ大いに批判するよりも、相手の背景を知り、少しでも受け入れようとする事で、何かその人が救われるきっかけを与えることができるかも知れない。そう考えると、これは先生のおっしゃる様に、自分にしか果たすことのできない役割なのではないかと感じます。ひとりひとりにある素晴らしい役割は、互いに相手を助け、救うようなものであれば、より平和な世の中になるのではないかと感じます。

「オベツカ、イラネ」

日本基督教団摂津三田教会牧師

西脇正之先生

自分の信じるものに素直に生き、権力者に殺されそうになっても媚び諂う事無く信仰を曲げなかったパウロの心に、私自身が見習わなければならぬところがありました。人にとにかく言われるのが好きではない私は、自分の信じるものが、また好きなものを他人の前で言うのを嫌い、これまでずっと隠してきました。しかし、今回のお話を聞き、自分の信じる

ものに素直でいたいと感じました。

「向うの岸に渡る」

梅花学園学園長

近藤十郎先生

向こう岸に渡る聖書箇所を読んだり、サンオブゴッドという映画を見たりしたことがあります。その時代を生きた人々、また現代を生きた人々へこの奇跡物語を伝えたいというメッセージであるということ、私もそう考えています。梅雨の時期や天災が多い日本では多くの人がその度に亡くなる方がいて、たくさんの方が死の恐怖を感じています。私自身も降雨が多い時、いつもは穏やかな川が増水し、豹変してしまう恐ろしい出来事を目にすることがあります。自分の立ち位置を定めることで自分がどう生きていくべきかということを変更して道が開けていきます。だからこそ、この奇跡物語から得られるメッセージを大切にすべきだと思います。今私たちが生きる意味を考え、積極的な生き方をしていきたいです。未来が見えていないから、すなわち向こう岸が見えていない時にあえて今だからこそできる自己確認ができる生き方をすれば、新しい未来が開かれていくと信じて前に進んでいきたいと思っています。

「梅花の香り・梅花の風」姉妹校からのエール

元同志社大学神学部教授

本井康博先生

新元号の「令和」が発表されたときは、私を通っていた高校が文学に力を入れているということもあり、『万葉集』についてとても勉強しました。そのことを本井先生のお話を聞いて思い出しました。

このようなことは全く考えず本校に進学しましたが、お話を聞いて素敵な大学に進学できたなど、より深く思いました。神戸、京都、大阪でそれぞれ最も古い女子大の繋がり、奇跡のようなお話に感じました。創立に関わった者たちの初対面が、日本ではなくシカゴであったこと。とてもすごいです。何気ない出会いが後々大きなことに繋がることもあるのだと思います。梅花女子大学の姉妹校との深い繋がり、創立にいたるまでの細かい経緯が聞けて嬉しかったです。

「人に寄り添っていくこと」

本学看護保健学部看護学科長

原田小夜先生

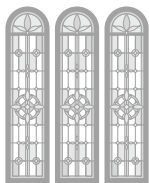
正しく人に寄り添うことは難しいことであると、今日のお話を聞いて思いました。寄り添うという言葉を知ると、その人の傍にいれば良いと真っ先に思い浮かびます。ですが、その人の心にも寄り添ってあげなければ「人に寄り添う」という意味にはならないと考えます。健常者同士でもそのようなことは難しいのに、病気を抱えた人となると困難であると思います。先生のお話にあった筋肉が硬化してしまう病気を抱えた人は、瞬きで意思疎通をとおっしゃっていました。話すことができないのでお互いにもどかしいだろうなと想像しました。けれどもその人の希望をかなえてあげたいです。そのためには色々な手段を考えて寄り添うことが必要であると考えます。どんな勉強よりも「相手の気持ちを考える」ことが一番大事であり、生きていく上で必要なものであると感じました。

「神さまの業を感じる」

児童養護施設レバノンホーム施設長

栗本一美先生

レバノンホームでは様々な年齢の方々が住んでいらつしやるのだと分かりました。またこの施設は自立にも力を入れている施設であることが分かり、すばらしいところであると思いました。私も将来たくさん人の助けられるようなになりたいなと思いました。現在様々な子どもたちが様々な理由でしんどい思いをしているのだと分かり、なんとかその状況を食い止めることができないのだからかと思いました。今回のお話を聴いて、私には今何ができるのだろうかと思えて考えることができました。これからたくさん人の悩みがあったとしても前を向いて進んでいきたいと思いました。今回のお話で今の日本の現状を知ることができたので本当に良い学びになりました。これからたくさん学んでいきたいと思っています。



「そこで、わたしはあなた方に最高の道を教えます」

児童養護施設救世軍希望館顧問

前田徳晴先生

目に見えないものを学べていると前田先生はおっしゃっていました。本当にその通りだと思います。普通の講義の中では、自分自身の心の動かし方を知らないままです。主のお考えやイエス様のお言葉にいつも感謝して、人との付

き合いやコミュニケーションが出来ていると思います。17歳にして差別に闘う少女は本当に憧れに近い存在です。自身の意見を主張して何億・何兆もいる人に対して働きかけているその強さに見習いたいと思いました。

「破れを担う人へ」

日本基督教団大阪教会牧師

本庄侑子先生

人間の欲望が他人を苦しめ、傷つけている、そしてそれが戦争につながっていると考えたとともに残酷な生き物だなど思いました。また、悲しくなりました。知識を得る事は素晴らしい事ですが、同時に他人を蹴落として苦しめてしまう、一番恐ろしい武器だなど思いました。知識を身につけて、その知識をどう使うかが大事な事なんだと思いました。お話にあった、人間は罪深い生き物、と言う言葉がとても心にさざりました。知識を得ることは誰かの上に立ち支配するものではなく、相手を助けるために、よりよい社会・環境そして人間関係をつくるためにあることを忘れてはいけないなと思いました。私も、誰かを助ける事が出来る人になりたいと思いました。また、そのために毎日の授業をしつかりと取り組み、知識を身につけていきたいと思いました。

「生きている不思議」

日本基督教団大津教会牧師

平山正道先生

今回のお話であったように、毎日当たり前にしていることは普通のことだろうかというように、私もこのコロナになって

今普通に当たり前に行えていることは、当たり前だと思わない方がいと思うことが多々ありました。楽しかったりしんどかったり疲れていたたり、日常を送っているとき々なことがありますが、その一つ一つの中に、時間を無駄にしたなと思う時間があります。そんな無駄にしたたり前じゃないと考えた方がいいなと思うこともありました。また明日が来るのは当たり前だと思わず、1日1日を大切にしなければならぬと思っています。

「隣人との出会い」

日本基督教団神戸教会牧師

菅根信彦先生

「物を獲得することよりも手放していく、あるいは誰かに与えていくような人生を送る」という言葉がとても心に残った。私も最近になってから、友達が多ければ学生生活が楽しい訳では無いし、物を沢山買えば生活が豊かになる訳では無いように、物の多さと豊かさや幸せは比例しないと実感した。自分にとって大切なものは何かを見極めて、手元にある物や人を大切にしていきたいと思う。

「心を得た人は自分の魂を愛する」

日本基督教団天満教会牧師

小西望先生

SNSの普及などにより、他人の様々なものを簡単に見られるようになった結果、他人と比べてしまうために、現代人は昔よりも自己肯定感が低くなっているのかもしれない。自分を愛せるようになりたいと、改めて考えさせられたテーマでした。

日本基督教団神戸多聞教会牧師
梅花中学・高等学校聖書科非常勤講師

まじりました。大学も入学式が中止になり、登校もできなかつたため「本当に大学生になつたのだらうか」と思う日々が続きました。このようなことをふまえて、近藤先生がおっしゃっていた通り「人間は何かを失つて初めて気づく」ということを感じます。失う前に気づいてほしいと強く思います。平和な日々が続けられているため、気づきたくても気づけないのだと考えます。ならば戦争や食糧不足もなく、毎日を安心して過ごせることにま



同志社国際中学校・高等学校

チャブレン 山本真司先生

ロバに乗ることで私たちと同じ目線に立つことが出来るためでは、という先生の言葉を聞き共感した。上から眺めるという時点で神などは私たちについて理解する気が無いように感じるが、同じ目線で立つことで私たちについて理解されていると感じられ、私たちも神について理解しようとするのではないかと感じた。

日本基督教団同志社教会牧師
望月修

今回のチャペル・アワーを聞いて、聖書をすべて理解しようというという言葉に、今まで聖書には理解がたい内容など、決して自分の中で肯定的なものになっていないものがありました。でも、その時生じた疑問は視点を変えたとすんなり入ってくるものがあつたことに今回の話を聞いて気づかされました。

「喜びの歌〜アドベント・クリスマスの
讃美歌を歌う〜」

女性合唱団指揮者 堀田啓子先生

今回のチャペル・アワーで堀田先生の話を聞いて改めて音楽は凄いなと感じました。音楽を聴くことで悩んでいたことが吹っ飛んだり、元気をもらったりするので音楽の力は偉大だなと感じました。また、堀田先生の歌声は綺麗でいつまでも聴いていたいなと思いました。聴いていて清々しい気持ちになりました。画面越しというのが残念でした。直接その場で一緒に歌いたかったなと思いました。賛美歌はいろんな賛美歌があり、たくさんあるのだなと感じました。なんだか愛らしいものもあったのは驚きました。最近、またコロナの感染者が増えて正直とても不安ですが暗い世の中を、音楽を聴くことで晴らすことができればいいなと思いました。



「心より添うクリスマス」
日本基督教団平安教

今回のチャペル・アワーもクリスマス
小笠原純先生
礼拝という特別な礼拝であるためとても
豪華な装いのため画面越しからも特別感
が非常に伝わってまいりました。本日の
説教者である小笠原先生のお話を聞き、
パデインソンという作品の素晴らしさや
難民や生活に難を抱えている人々世界全
体で協力していかなければならないと感じま
した。クリスマスケーキのお話では分か
ち合いの大切さも知ることができまし
た。今回の講義でイエス様がどれだけこ
の世界に幸福をもたらしてくださってい
るのか改めて理解を深める時間となりま
した。

本学看護学科教授 大井美紀先生

健康について何年か前から意識をしていました。そのため今回の大井先生のお話は、とても興味深くタメになりました。お話の中で「セロトニンが不足する生活に当てはまるかチェックする時がありました。私は11個中8個当てはまりました。私には出る理由もありません、自粛を求められているため、運動どころ歩くことも少なくなりましした。コロナウイルスが広がり始めた頃は、どうしてよいか分からず家にいることが多くても仕方がなかったと思います。ですが今は、気をつける事が分かってきたので、注意をしながら動いていこうと思いました。セロトニンのお話を聞くと、体調を整えるのにとても重要なものだと分かったので、そ

日本基督教団磐上教会牧師

のような意識が生まれました。動かないことだけが自分を守るのではない、ということが学べました。

感謝することは人生を豊かにするということがわかりました。私も普段、何かしてもらった時は感謝を伝えるように意識をしていますが、自然と当たり前になっっていることに對して「ありがとう」と伝えきれないように思います。感謝されて気分が悪くなる人はいないと思いたうので、まず先に感謝を述べるのが大切だなと改めて思いました。また、私も「ありがとう」より「すみません」の方が多く言ってしまったるように思えるので、なるべくお礼を伝える時は「ありがとう」と伝えるようにしていきたいです。今回特に、成田先生が仰っていた「不満の後からは感謝の言葉は出てこない」という言葉が印象に残りました。私も今よりも感謝を伝えられる人になりたいです。今日で、今年度最後のチャペル・アワーでしたが、チャペル・アワーを通して多くのことを学ぶことができました。



成田いうし先生



2020年度 チャペル・アワー講師一覧

(敬称略)

月	日	奨 励 題	略 歴	奨 励 者
5	11	チャペル・アワーにようこそ	梅花学園宗教主事	高田 太
	18	悩まない力	日本基督教団天満教会伝道師	西澤 献
	25	逆転の発想のすすめ	本学食文化学科教授	菅本 大二
6	1	好きこそものの上手なれ	本学情報メディア学科教授	瀬戸口 誠
	8	いのちの種を未来に	日本基督教団千里聖愛教会牧師	川江 友二
	15	あなたの隣人になる存在	日本基督教団京都榮教会牧師	内山 友也
	22	座って食べなさい	日本基督教団鳳教会主任担任教師 梅花中学・高等学校聖書科非常勤講師	三浦 遙
	29	2番目に大切なこと	日本基督教団香里ヶ丘教会牧師	渡辺 圭一郎
7	6	祈り	梅花学園同窓会副会長 元梅花中学校教頭	垣内 範恵
	13	希望	日本基督教団河内松原教会牧師	井口 智子
	20	人生の真実	日本基督教団島之内教会牧師	木戸 定
	27	オベッカ、イラネ	日本基督教団摂津三田教会牧師	西脇 正之
8	3	向こう岸に渡ろう	梅花学園学園長	近藤 十郎
9	28	梅花の香り・梅花の風 ー姉妹校からのエールー	元同志社大学神学部教授 日本基督教団同志社教会役員	本井 康博
10	5	人に寄り添うということ	本学看護保健学部看護学科長	原田 小夜
	12	神さまの業を感じる	児童養護施設レバノンホーム施設長	栗本 一美
	19	そこで、私はあなた方に最高の道を教えます	児童養護施設救世軍希望館顧問	前田 徳晴
	26	破れを担う人へ	日本基督教団大阪教会牧師	本庄 侑子
11	2	生きている不思議	日本基督教団天津教会牧師	平山 正道
	9	隣人との出会い	日本基督教団神戸教会牧師 頌栄保育学院理事長	菅根 信彦
	16	心を得た人は自分の魂を愛する	日本基督教団天満教会牧師	小西 望
	23	献げる喜び	日本基督教団神戸多聞教会牧師 梅花中学・高等学校聖書科非常勤講師	近藤 誠
	30	子ろばに乗って	同志社国際中学校・高等学校チャプレン	山本 真司
	7	ヤバいぜ！聖書	日本基督教団同志社教会牧師	望月 修治
12	14	喜びの歌 ～アドベント・クリスマスの讃美歌を歌う～	川西合唱連盟理事長 女声合唱団指揮者	堀田 啓子
	21	心より添うクリスマス	日本基督教団平安教会牧師	小笠原 純
	29	聖書から学ぶ健康なライフスタイル	本学看護学科教授	大井 美紀
1	25	感謝で生きる道	日本基督教団磐上教会牧師	成田 いうし

 宗教部編集後記

今年も新しい扉が開かれ、2021年が始まりました。

昨年は新型コロナウイルス感染防止のためにチャペル・アワーはリモート・ライブ配信の形で行いました。ライブ配信は毎回緊張の連続でしたが、多くの学生・教職員の祈りに支えられ、2020年度のチャペル・アワーを無事に終了することができましたことを心より感謝申し上げます。

宗教部の一年の歩みも学生、教職員や学内関係者、同窓会や教会の皆様を支えられ、その年輪はまたひとつ大きくなりました。この場をおかりしてお礼申し上げます。茨木ガーデンキャンパスの紅白の梅が満開の中、今年も皆様のご協力により「チャペル・ニュース」第17号の編集を終えて、無事に発行することができました。ありがとうございました。

次の旧約聖書の御言葉のように、4000年前の信仰の父と共に神様に心から感謝して、2021年もチャレンジ&エレガンス！実り豊かな「主の年」になればと思います。

(〇)

主はアブラムに言われた。「あなたは生まれ故郷の家を離れてわたしが見す地に行きなさい。わたしはあなたを大いなる国民にしあなたを祝福し、あなたの名を高める祝福の源となるように」。

(創世記12章1～2節)